

令和 7 年度 緑が丘小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標
実践を通して、自ら学び続ける力を身につけながら、心豊かにたくましく生きていく児童の育成
- (2) 具体目標
【合言葉】みどりの子 明るく やさしく 根気よく
「自分をつくり自立する子（生きる力）」
・友達をつくり力を合わせる子（協調性・規範意識） ・豊かな心をつくる子（感受性・想像力）
・丈夫な体をつくる子（意欲・体力） ・確かな考えをつくる子（課題解決力・主体性）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- 豊かなかかわりを通して、共に学び、誰もが生き生きとかがやく学校
- ◇ 児童一人一人が認められ、夢や目標に向かって他と協働しながら意欲的に学ぶ学校
 - ◇ 教職員がそれぞれのよさや専門性を発揮し、協働する学校
 - ◇ 家庭や地域とのつながり(情報共有)を大切にし、保護者や地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

学校経営の理念を以下のように捉え、その実現のための方針を(1)～(7)とする。

「豊かなかかわり」とは...児童一人一人がよさや可能性を認め合いながら、多様なかかわりをもつこと。
「共に学び」とは...児童が互いのよさや可能性を発揮しながら協働し、学びを深めること。
「生き生きとかがやく」とは...児童が意欲的・主体的に力を発揮すること。
児童が達成感や充実感を実感すること。
児童が自己の存在や変容を肯定的にとらえること。

- (1) 児童一人一人のよさや可能性を認め、自己肯定感をもてる学年・学級経営に努める。
- (2) 豊かなかかわりを生み出すために、授業での交流の場、異学年交流の場、縦割り班交流の場などを工夫する。
- (3) 主体的・対話的で深い学びを目指した子供主体の授業改善に取り組み、一人一人が自分ごととして課題解決に取り組むことを通して、各教科等の資質・能力を育成することができるようにする。
- (4) 自他の生命を尊重し、健康で安全な生活が送れるよう、自ら進んで体力づくりを行ったり望ましい生活習慣を身に付けたりする態度の育成に努める。
- (5) 児童一人一人の教育的ニーズを把握し、児童の様々な状況に応じた指導・支援に努める。
- (6) 家庭や地域と学校経営ビジョンを共有し、情報発信をすることで連携を密にするとともに、地域の教育資源を効果的に活用して、児童の健全な成長を促す。
- (7) 働きやすく働きがいのある職場環境を整えることで、ゆとりをもって児童と向き合うことができる働き方改革を推進する。

【陽南地域学校園教育ビジョン】	主体的に活動できる子どもを育む 小中一貫教育
-----------------	------------------------

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則等の法令及び学習指導要領に則り、栃木県教育委員会の指導方針、「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」並びに小中一貫教育の趣旨に従い、本校の教育目標の達成を期するよう学校経営方針に基づいて教育課程を編成する。
- (2) 学校教育目標の具現化を図るために、地域や本校の実態、児童の心身の発達段階や特性を配慮して、教育活動全体にわたって確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図るよう編成する。
- (3) 基礎的基本的な知識及び技能の確実な定着を図るとともに思考力、判断力、表現力等の育成を図り、学びに向かう力、人間性等を涵養することが偏りなく実現されるよう、教育活動全体にわたって創意工夫をし、

学校教育目標が達成されるようにする。

- (4) 児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立て、教育課程の実施状況を評価して、その改善を図る。また、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図る。その際、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくよう努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- 学校経営の理念「豊かなかかわりを通して、共に学び、誰もが生き生きとかがやく学校」の具現化を目指す。
 - ・ 目指す児童の姿や育てたい資質・能力を明確にし、「何のために」その教育活動を行うのかを全教職員で共有する。
 - ・ 子供主体の授業改善に努めることで、学び合える集団づくりや個々の学力の向上、自己肯定感の高揚を図る。
 - ・ 豊かなかかわりを生み出す交流活動の工夫により、他者とのかかわり方を学び、他者とかかわることのよさを実感できるようにする。
 - ・ 教科担任制や特別支援教育の視点を重視した指導・支援により、多様な観点で児童の特性を捉え、個々のよさや可能性を認めることができるようにする。
 - ・ 個々の教職員が強みを発揮し、弱みを補完し合って協働的な取組を行うとともに、校務の焦点化や ICT を活用した効率化、勤務時間の適正化を図って自己の働き方をマネジメントすることで、働きがいにつながる働き方改革を行う。

(2) 学習指導

- 主体的に考え、協働する授業をつくる
～よさと可能性を発揮して課題解決する学級活動を軸として～

(3) 児童指導

- きまりやマナーを守り、主体的に行動できる児童の育成

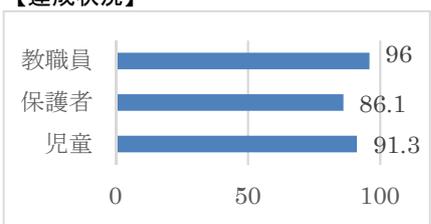
(4) 健康（体力・保健・食・安全）

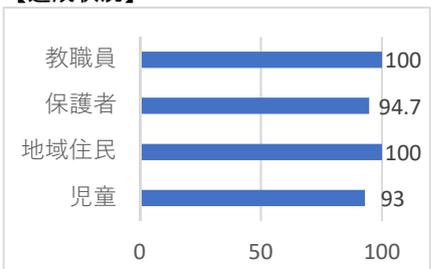
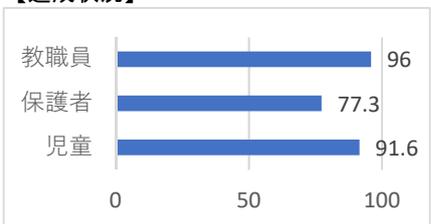
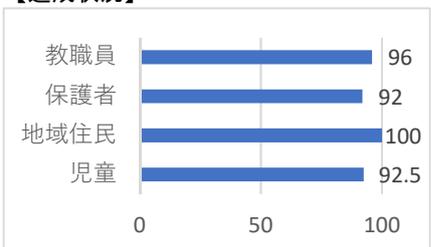
- 心身ともに健康で安全に生活するために主体的に判断できる児童の育成

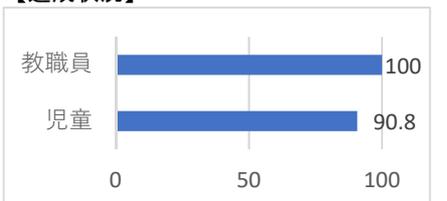
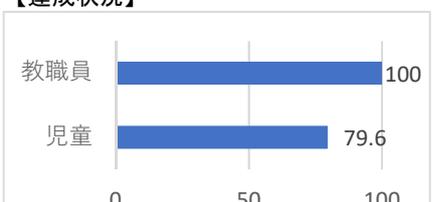
6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

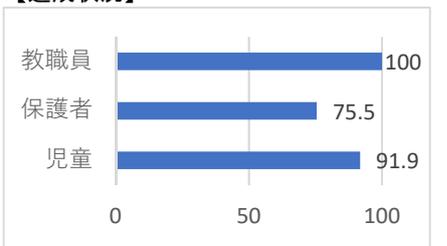
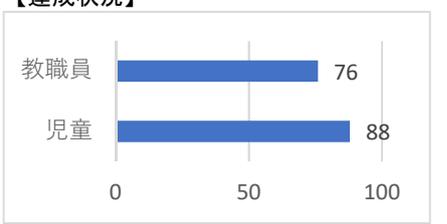
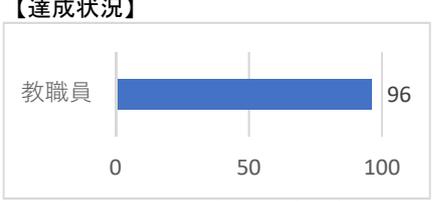
※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

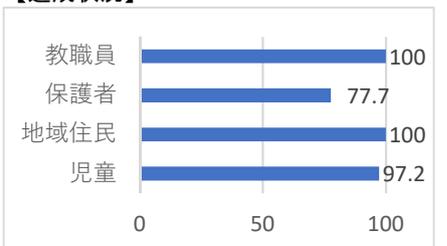
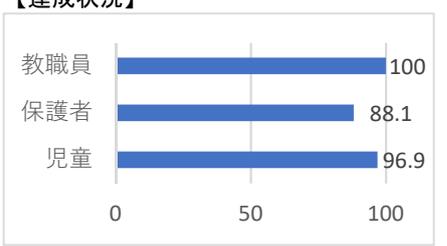
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

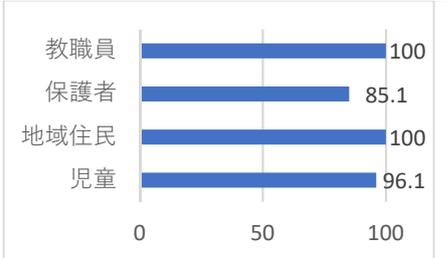
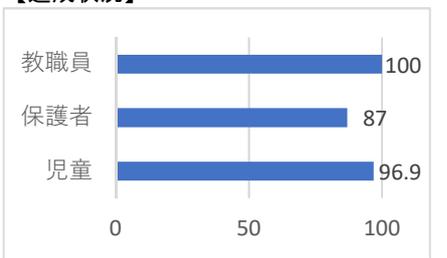
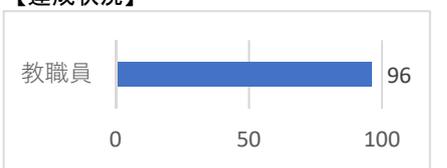
第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1）確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート</p> <p>「児童は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」</p> <p>⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学習課題を解決するために、話をじっくり聞いたり、発表したりするなどの学び合いを通して、児童が主体的に考え協働して学習に取り組めるようにする。</p> <p>② 国語科や特別活動の話し合い活動の実践を他の教科等にも生かして、主体的に話し合い活動を実践する力の育成を図る。</p> <p>③ 学習に進んで取り組む意欲を高めるために、宇都宮モデルを生かし、学習の始めには学習のめあてを設定し、見通しをもって学習に取り組み、振り返りの時間を設け、自己の学びにつながる授業の工夫をする。</p> <p>④ 1人1台端末を積極的に活用し、友達との意見を交流したり、必要な情報を集め考えたりすることを通して、進んで学習に取り組めるようにする。</p>	B	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員 96 保護者 86.1 児童 91.3</p> <p>教職員・児童の肯定回答は、指標を達成したが、保護者では3.9ポイント指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>授業を相互に見せ合う機会や研修を継続し、教職員が学び合いを大切にしたい授業展開に努め、児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫する。日々の児童の取り組みがホームページに随時発信されていることを、引き続き保護者に周知し理解を促す。</p>

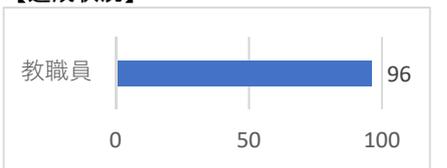
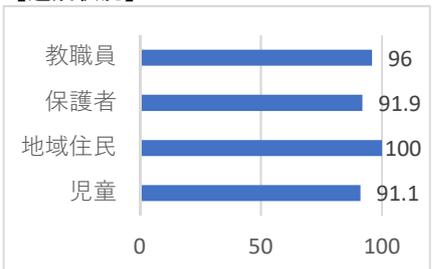
<p>1- (2) 豊かな心を 育む教育の 推進</p>	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート</p> <p>「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」</p> <p>⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 友達を呼ぶ時に「～さん」と呼ぶことを徹底し、道徳教育や人権教育の指導を充実させ、思いやりの心を育てていく。</p> <p>② 学校行事等との関連を図り、個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>③ 教師の率先垂範による好ましい言語環境の構築を図り、相手の気持ちを考えた言葉遣いができる児童を育成する。</p> <p>④ 縦割り班活動や縦割り清掃等の異学年交流の充実を図り、自他を認める心や協力しようとする態度を育む。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員・地域住民においては 100%であった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>好ましい言語環境の構築や異学年交流の充実を図り、自他を認める心や相手を思いやる心の育成に努める。特に、他者を尊重する態度を育むため、人権教育活動のさらなる充実を図る。</p>
<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート</p> <p>「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」</p> <p>⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 夢や目標に向かって努力することの大切さについて指導するとともに、児童の内面を共感的に受け止め一人一人を大切に、やる気と自己有用感に満ちた児童を育成する。</p> <p>② 児童が集団の中で自分らしさを発揮し、他と協働する体験や、競い合い高め合う体験を重ね、望ましい集団を育てる。</p> <p>③ キャリアパスポートを活用し、本人の目標や取組を認め励ます指導により自尊感情、自己肯定感を高め、その様子を HP や学年だよりで家庭に知らせるようにする。</p> <p>④ 活動後に振り返りを行い、次回の活動に生かせるような指導助言をする。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員・児童の肯定回答は、指標を達成したが、保護者では 12.7 ポイント指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>学級活動を軸として、目標設定から活動までの振り返りを行い、次回の活動に意欲をもって取り組めるように指導する。また、その様子をホームページで重点化するところを絞って家庭に知らせるようにする。</p> <p>3つの金賞等の表彰を生かし、互いに認め合う場を設けるなど、引き続き励ましの機会とするともに、目標に向かって努力している児童を機を捉えて日々賞賛する。</p>
<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】全体アンケート</p> <p>「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」</p> <p>⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 食育指導、給食指導、歯みがきや保健委員会の取組など、学校生活の中の様々な保健安全指導を通して、基本的な生活習慣を身に付け、衛生的・健康的な生活ができるよう自ら健康安全について考える場を設定する。</p> <p>② 各教科等における安全に関する指導の充実を図り、ルールやマナーの指導を徹底し、児童自ら怪我や事故の未然防止に努めるよう指導する。</p> <p>③ 感染症や熱中症等の予防を児童が理解し、自ら場に応じた行動をするよう適宜指導を行う。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>対象において、肯定回答は指標を達成し、地域住民においては 100%であった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>日頃の指導や避難訓練等を通して、児童が自身の健康や安全について意識して行動できるよう、養護教諭、学校栄養職員と連携し、健康安全教育を徹底する。</p>

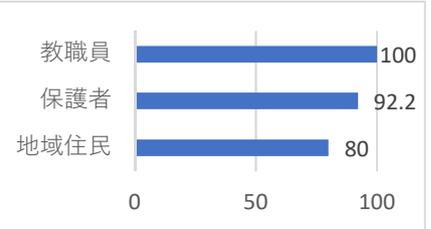
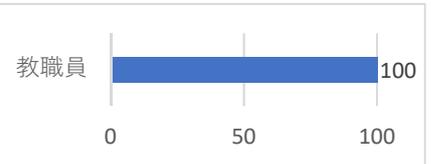
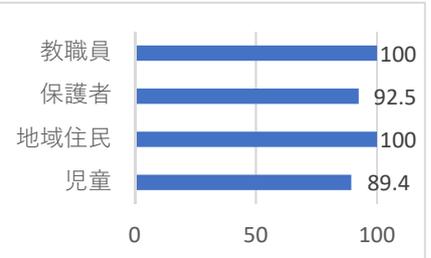
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】全体アンケート</p> <p>「児童は、自分の良さや考えを生かしたり、周りとは協力し合ったりして進んで生活をよりよくしようとしている。」</p> <p>⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① Q-U 検査やお話タイム等を活用し、児童一人一人の思いを受け止め、よりよい学級とするための手立てとする。</p> <p>② 自己有用感を高める道徳や学級活動等を実施し、望ましい人間関係の形成や児童が自己決定できる場の設定を図る。</p> <p>③ 特色ある学校づくり等に関する取組である「自分たちの学校を自分たちでつくる」の行動指針のもと、学級活動や児童会活動等の特別活動における児童の主体的な取組を推進し、自己肯定感や他との協働する力の育成を図る。明確な目標を立てて体験的な活動に意図的・計画的・継続的に取り組み、達成感や成就感の高揚を図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>児童</td><td>90.8</td></tr> </table> <p>対象において、肯定回答は指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 学校生活の中で協働する活動を設定し、自己や他者を認められるように指導・支援することで、自尊感情や自己肯定感を高められるようにする。</p>	教職員	100	児童	90.8		
教職員	100								
児童	90.8								
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート</p> <p>「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」</p> <p>⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 教材研究の充実やALTとの連携により、英語によるやりとりを中心とした授業実践や興味をもてる授業や内容の工夫を推進する。</p> <p>② 学校行事等へのALTの参加やALTとの交流の場の工夫を行い、生きた英語に触れる機会やコミュニケーションの楽しさを実感できる場の充実を図る。</p> <p>③ 教材等、備品の管理や校内掲示の工夫を行い、外国語活動の充実に向けた環境整備の推進を図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>児童</td><td>79.6</td></tr> </table> <p>教職員の肯定回答は、指標を達成したが、児童では 10.4 ポイント指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続きALTと連携し、教材研究や授業内容の充実を図る。また、業間や給食の時間などにも ALT と交流する機会を設ける。</p>	教職員	100	児童	79.6		
教職員	100								
児童	79.6								
	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート</p> <p>「私は、宇都宮の良さを知っている。」</p> <p>⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 生活科・社会科・総合的な学習の時間・道徳等の学習において、地域や郷土に関連付けた課題の設定を行う。</p> <p>② 特別活動（学校行事等）・校外学習における体験的な学習の場を設定し、保護者にもその様子を発信し、児童が郷土宇都宮に対する理解を深められるようにする。</p> <p>③ 宇都宮学の学習を通して、宇都宮の良さについて学習したことが、家庭や地域の方に伝える機会を設定する。（フリー参観等）</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>92</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>71</td></tr> <tr><td>児童</td><td>86.6</td></tr> </table> <p>教職員・児童の肯定回答は、指標を達成したが、保護者では9.0ポイント指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 宇都宮の良さに関して、児童の興味関心がより高まるように、図書資料を活用する。また、日々の児童の取組や校外学習等の様子をホームページで発信していることを周知し、保護者が宇都宮の良さの視点を広げられるようにする。</p>	教職員	92	保護者	71	児童	86.6
教職員	92								
保護者	71								
児童	86.6								

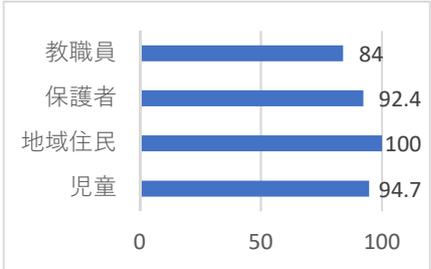
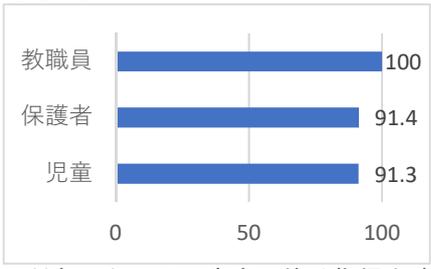
<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等 を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯 定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業実践を通して、デジタル・ シティズンシップ教育を行う。 ② デジタル教科書やICT機器の 効果的な活用を行い、情報活用 能力の育成を図る。 ③ 朝の全校読書を充実させると ともに、多様な教科で図書資料を 有効に活用した学びを充実させ るために、学習ニーズに基づい た関連図書情報の提供や市立図 書館との連携を行う。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>75.5</td></tr> <tr><td>児童</td><td>91.9</td></tr> </table> <p>教職員・児童では、肯定回答が指標を 達成したが、保護者では 14.5 ポイント指 標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き教員が場に応じた活用法につ いての実践例を研修等で交流し、ICT 機器 や図書資料を有効に活用した学びを充実 させる。</p>	対象	達成率	教職員	100	保護者	75.5	児童	91.9
対象	達成率										
教職員	100										
保護者	75.5										
児童	91.9										
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A 9 児童は、「持続可能な 社会」について、関心を もっている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等 の『持続可能な社会』につい て、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 社会科・理科・生活科・総合的 な学習の時間・家庭科・特別活 動において「持続可能な社会」 と関連する学習活動の見直しや 児童の実態に応じた具体的な活 動内容の検討を行い、年間指導 計画を作成する。 ② 環境委員会主導で「持続可能な 社会」(SDGs)に対する児童 の関心を高め、ごみの分別・残 菜を減らす取り組み・節電・節 水などに対して意識を高め実践 する。 ③ 「持続可能な社会」(SDGs) への取組の意義を考えさせ、取 組への動機づけを図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr> <tr><td>教職員</td><td>76</td></tr> <tr><td>児童</td><td>88</td></tr> </table> <p>教職員では13.4ポイント、児童では2.0 ポイントと、対象において、肯定回答は 指標をすべて下回った。</p> <p>【次年度の方針】 環境委員会を中心に、各委員会や各ク ラスにおいて、SDGs における取組 (ごみの分別、残菜を減らす取組、節 電、節水など)を行う。</p>	対象	達成率	教職員	76	児童	88		
対象	達成率										
教職員	76										
児童	88										
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必 要とする児童や外国人児童等 の実態に応じて、適切な支援 をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① おはなしタイム(教育相談)や 保護者との懇談を通じた児童理 解の推進を図る。 ② 校内支援委員会やケース会議を 活用して、指導目標・指導の手 立て等の検討を行い、組織的指 導の充実に努める。(会議の内 容を全職員で共有していく) ③ 困り感を抱えた児童が自信をも って生活できるよう、かがやき ルームにおける指導の充実に図 る。 ④ 特別支援教育の視点を生かした 児童指導・授業づくりについ ての研修を充実させる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr> <tr><td>教職員</td><td>96</td></tr> </table> <p>対象において、肯定回答は指標を達成 した。</p> <p>【次年度の方針】 校内支援委員会を活用することで、教 職員間で情報を共有し、組織的指導・支 援の充実に努める。どの児童にも分か りやすい授業や、安心して学習や生活を行 うことのできる教室環境づくりにつ いて、学校全体で共通理解し充実に図る。 研修等を通して、困り感をもち児童が 抱える特性を教職員が理解し、特性に応 じた対応の充実に図る。</p>	対象	達成率	教職員	96				
対象	達成率										
教職員	96										

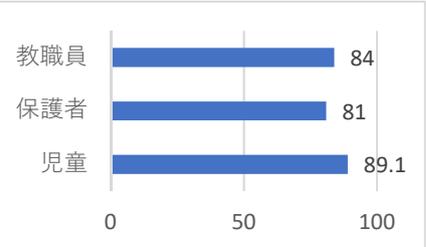
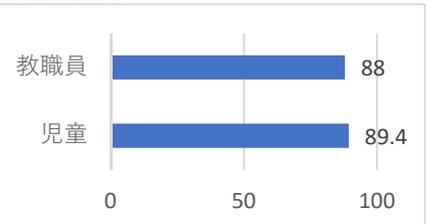
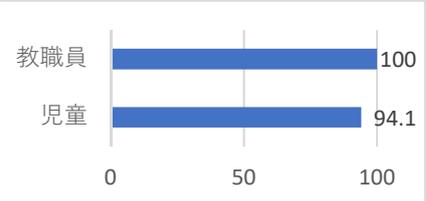
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学年・学級懇談会や学校だより、HP 等で積極的に学校の方針を説明・公表するとともに、保護者や地域といじめに関する情報交換に努める。 ② 「いじめは絶対に許さない」、「いじめには大人が介入する」を全教職員で認識し、安心、安全な学級づくりを行うとともに、児童の主体的な取組（いじめゼロ集会）も促しながら、未然防止、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。 ③ 「いじめゼロ集会」の実施を行い、いじめゼロ強調月間の取組を積極的に発信することで、学校の取組を保護者や地域と共有し、協力して児童を見守る体制を作っていく。学年便り等で、いじめゼロ標語を紹介する。 ④ おはなしタイム（教育相談）、Q-U 検査等を活用した実態把握の工夫や年 4 回のいじめアンケートの実施と結果の効果的な活用を図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員・地域住民・児童では、肯定回答が指標を達成したが、保護者では 12.3 ポイント指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 安心、安全な学級づくりを行い、いじめの未然防止に努める。おはなしタイム、いじめアンケート等により、いじめの早期発見・早期解決に組織的に取り組む。また、いじめに対する学年での取り組みや、児童の主体的な取組（いじめゼロ集会等）を積極的に家庭・地域に発信することで、学校の取組を保護者や地域に周知する。</p>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学年・学級経営計画に基づいた意図的・計画的な指導や教師と児童の協働・共遊を通して、安心、安全で、居心地がよく、明るく活気に満ちた学級風土づくりを推進する。（学級活動や特別活動等の活用） ② おはなしタイム（教育相談）・Q-U 検査の結果やスクールカウンセラーの効果的な活用に努め、児童の内面を共感的に受け止め児童一人一人を大切にする。 ③ 日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、対策委員会での共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。 ④ 別室登校支援等、児童の実態に応じた支援策の工夫に努める。 ⑤ 自己研鑽や学年共同での授業研究等を積極的に行い、児童一人一人がわかる・できる授業の工夫に努める。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員・児童では、肯定回答が指標を達成したが、保護者では 1.9 ポイント指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 意図的・計画的な指導（発達支持的生徒指導）やおはなしタイム、Q-U 検査の結果活用等により、安心、安全で居心地の良い学級づくりに努める。また、個々の学びを保障する分かりやすい授業の工夫に努める。</p>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいききとした雰囲気である。</p>	<p>① 普段から児童の声に耳を傾けるとともに、おはなしタイム（教育相談）や懇談などを通して、本人の困り感を把握し、学校全</p>	<p>【達成状況】</p>

<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>【数値指標】全体アンケート</p> <p>「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」</p> <p>⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>体として児童の様子を共有し本人の居場所の確保に努める。</p> <p>② 宗教や国籍や健康状態等を考慮し、事前に話し合い、学校行事への参加について判断する。</p> <p>③ Q-U 検査の結果などを活用し、本人だけでなく学級全体の様子を把握することで、互いに認め合える集団づくりに努める。</p> <p>④ 名前を呼ぶ時には、「～さん」付けで呼ぶことを徹底し、教師も率先垂範を心がけ、児童一人一人の人権を意識した生活を推進する。</p>	 <p>教職員・地域住民・児童では、肯定回答が指標を達成したが、保護者では4.9ポイント指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 普段から児童の困り感に寄り添い、共感できるよう心掛け、児童が安心して学校生活を送ることができるよう努める。児童とともにつくる行事等での活動を通して、互いに認め合える集団づくりや互いに助け合う人間関係の醸成を図る。</p>
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート</p> <p>「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」</p> <p>⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 自己研鑽や学年共同での授業研究等を積極的に行い、子供主体の授業改善に努めることで、学び合える集団づくりや個々の学力の向上を図る。児童一人一人が意欲をもって取り組める授業の工夫を心がける。</p> <p>② T・T や少人数による習熟度別学習を充実させるとともに、教科担任制や特別支援教育の視点を重視した指導・支援を行うことで、個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>③ 朝の学習や授業中に、ICT（特に1人1台端末）を効果的に取り入れ、個に応じた指導ができるようにする。</p> <p>④ 朝の学習や授業中に習熟を図る時間を意図的に設定するとともに、家庭学習について「家庭学習のヒント集」（陽南地域学校園）を活用し、具体的な指導・支援を行うことにより、基礎・基本の確実な定着を図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員・児童では、肯定回答が指標を達成したが、保護者では3.0ポイント指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 今後とも、教職員による分かる授業の工夫を心がけ学力向上を目指すとともに、個に応じた指導を充実させる。日々の児童の学習への取組をホームページ等で発信していく。上学年においては、算数科を中心に、T・T や少人数による習熟度別学習の充実を図る。</p>
<p>4-(2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート</p> <p>「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」</p> <p>⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 管理職（副校長）による総合的な連絡調整の実施に努める。</p> <p>② 目指す児童の姿や育てたい資質・能力を明確にし、「何のために」その教育活動を行うのかを全教職員で共有するとともに、積極的な情報提供の推進にも努め、連携を密にし、チームとして組織的に対応する。</p> <p>③ 校内支援委員会等の各種委員会に専門性を有する教職員を組織の一員として、積極的な情報提供や意見を反映できるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>対象において、肯定回答は指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、研修や職員会議などを通して、学校全体で連携を高められるように活性化を図る。来年度もチームとして、連携を重視し、学校の諸課題の解決に取り組んでいく。</p>

<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 校内働き方改革計画を全職員で共有し、「働きがいがあり、働きやすい学校」を目指す。 ② 各教育活動の意義や目的を明確にし、業務の重点化を図ることで改善できることに迅速に取り組み、業務縮減を実現する。 ③ リフレッシュデーの計画的な実施により、各教職員のタイムマネジメント力を向上させる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>対象において、肯定回答は指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 今後も、子供と向き合う時間を作り出すために、各活動の意義を明確にし、さらなる業務縮減と教育の質の向上を図る。自身の働き方を自分でマネジメントし、ICT活用やリフレッシュデーの柔軟な実施を通じて、全職員が「働きがい」を実感できる職場環境づくりを行う。</p>
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 地域学校園として、各教科で身に付けさせたい力を年間指導計画に位置付け、教職員が9年間で児童を育てる意識がもてるようにする。 ② 小中連携を密にし、小中一貫教育研修会の各部の話し合いの内容や乗り入れ授業の内容を全教職員で共有し、共通理解を図る。 ③ 給食だよりや図書館だより等の地域学校園共有発行を推進する。 ④ 小中合同のあいさつ運動や中学校訪問の機会を通して、児童生徒相互の交流を推進するとともに、小中に限らず地域にも呼びかけ、地域ぐるみであいさつ運動に取り組むようにする。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>対象において、肯定回答は指標を達成したが、全体としての肯定回答の割合があまり高くない。</p> <p>【次年度の方針】 掲示物等を活用し、地域住民の方に周知してもらえるようアピールする。あいさつ運動については、次年度も中学校と連携して実施し、児童が小中一貫の意義を理解できるように呼び掛ける。学校の教育活動を地域とつなげながら主体的に活動できるように努める。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学校便り、学年便り、保健便り、食育便り、図書館便り等の工夫と定期的発行やホームページでの情報の積極的な発信・提供を行い、家庭・地域・企業等との連携・協力を推進する。 ② 生活科や総合的な学習の時間における体験活動を中心とした交流活動の推進や地域団体・地域人材の積極的な活用を通して、地域と共に歩む魅力ある学校づくりを推進する。 ③ 外部講師の積極的な招聘に取り組み、体験的な活動のさらなる充実をめざす。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>対象において、肯定回答は指標を達成した。地域住民においては100%であった。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、外部講師の積極的な招聘に努め、地域や企業との連携を推進する。また、地域コーディネーターとの連携をより深めることで、児童の豊かな体験的活動を充実させる。</p>

<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 縦割り班清掃活動の児童と教師の協働による日常の清掃活動等を充実させ、環境の保全に努める。 ② 長期休業前の清掃強化週間の有効活用や、保護者の協力のもと奉仕活動の充実を図り、利用者のことを考えた学校環境づくりを行う。 ③ 地域協議会と連携し、水泳授業や校外学習の見守り等のボランティアを募り、安全・安心な環境づくりの推進に努める。 ④ 安全点検結果に基づく、計画的な修繕の実施に努め、修繕補修を迅速に行い、安全な学習環境づくりを推進する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員 100 保護者 92.2 地域住民 80</p> <p>教職員・保護者では、肯定回答が指標を達成したが、地域住民では 10.0 ポイント指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 今後も、児童と教師の協働による日常の清掃活動の充実を図る。また、地域の方とも連携を図り、プールの見守りボランティア等の安全に配慮した学習環境づくりを行う。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】全体アンケート 「コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 職員研修により、1人1台端末を日常的に文房具として活用した授業づくりを行うためのスキルを身に付け、実践力の高揚を図る。 ② 学校用グループウェア・校務支援システム・デジタル連絡ツールの効果的な活用について全教職員で共有する。 ③ 作成データの保存や管理を組織的・計画的に行う。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員 100</p> <p>対象において、肯定回答は指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 教職員間での ICT 機器活用の情報共有を、引き続き行う。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 代表委員会の計画であいさつ運動強化週間を実施したり、あいさつ標語を掲示したりするなど、児童の主体的な活動によるあいさつの励行に努める。 ② 陽南中学校地域学校園や、緑が丘小学校魅力ある学校づくり地域協議会との連携を図り、保護者、地域と連携協力したあいさつ運動を実施する。 ③ 下学年では、積極的に元気にあいさつするよう指導し、上学年では状況に合わせて会釈を活用していくなど、学年に応じた工夫したあいさつができるようになる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員 100 保護者 92.5 地域住民 100 児童 89.4</p> <p>教職員・保護者・地域住民では、肯定回答が指標を達成したが、児童では 0.6 ポイント指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 児童の主体的なあいさつ活動の充実を継続し、取組を認めて、褒めて、励ます声掛けを引き続き行う。</p>

	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 基本的な生活習慣を身に付けようとする意識を高めるために、「緑が丘小生活のきまり」を各学級に掲示し、教職員と児童できまりの意義を考え、相手意識を育て、マナーを守ることの大切さ等を育む指導を日常的に行う。</p> <p>② 児童（運営委員会）が主体となって、行事等に合わせた生活目標を設定し、児童のきまりを守ろうとする意識を高めとともに、全教職員で重点的な指導に当たる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>84</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>92.4</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr> <tr><td>児童</td><td>94.7</td></tr> </table> <p>保護者・地域住民・児童では、肯定回答が指標を達成したが、教職員では6.0ポイント指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 「緑が丘小生活のきまり」を活用し、児童にきまりやマナーの意義を考えさせることで規範意識を高め、生活の中で実践できるように繰り返し指導する。また、児童が主体となって、行事等に合わせた生活目標を設定し、児童のきまりを守ろうとする意識を高める取組を継続する。</p>	教職員	84	保護者	92.4	地域住民	100	児童	94.7
教職員	84										
保護者	92.4										
地域住民	100										
児童	94.7										
<p>小・中学校、地域学校 共通の特色・課題等</p>	<p>B3 児童生徒は、コミュニケーションをとることで生活をより良くしようとしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 国語や学級活動で、話し合いの仕方を学ぶことを通して、積極的にコミュニケーションを取り、問題を解決しようとする態度を育てる。</p> <p>② 道徳の学習において、相手の立場になって考えたり、考え議論したりすることを通して、一人一人の自己肯定感を育て、自他を認め、思いやりの心を育てていく。</p> <p>③ 学級活動や児童会活動の自主的活動を通して、コミュニケーションをとることで、課題を解決することのよさを実感できるよう支援する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>91.4</td></tr> <tr><td>児童</td><td>91.3</td></tr> </table> <p>対象において、肯定回答は指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 学級活動や道徳科、児童会活動等で話し合う機会を設け、児童がコミュニケーションをとるよさを感じ取ることができるようにする。</p>	教職員	100	保護者	91.4	児童	91.3		
教職員	100										
保護者	91.4										
児童	91.3										

<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B4 児童生徒は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 1、2年では、宿題や音読、読書などに取り組み、家庭学習に取り組めるようにする。3年生以上では、陽南地域学校園「家庭学習のヒント集」を活用し、自主的に家庭学習に取り組めるようにする。</p> <p>② 発達の段階に応じて、「計画・テスト・分析・練習」等のPDCAサイクルで自主学習が行えるよう、学級懇談会や学習指導便りで家庭に伝え、毎日計画的に家庭学習に取り組めるようにする。</p> <p>③ 学びへの興味・関心を高める授業づくりに努め、授業の復習や発展学習、予習などに自ら取り組もうとする学ぶ意欲の継続を図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員 84 保護者 81 児童 89.1</p> <p>教職員では 6.0 ポイント、保護者では 9.0 ポイント、児童では 0.9 ポイントと、対象において、肯定回答は指標をすべて下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>家庭学習の意義を学級懇談会で家庭に伝えて、保護者との共通理解を図り、授業の復習や発展学習、予習などに自ら取り組もうとする意欲を高めていく。授業内で興味・関心を高め、その探究が家での自主学習に自然と繋がるような授業構成を工夫する。また、よい取組を掲示するなどして学級で紹介する。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B5 児童は、体力づくりに関心を持ち、進んで体力の向上に励んでいる。</p> <p>【数値指標】児童・教職員アンケート</p> <p>「自分は、運動集会や、検定するとき、目標に向かって努力している。」</p> <p>⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 各種検定カードの効果的な活用を図り、自分のめあてに向けた体力づくりの推進に取り組むとともに、家庭でも取り組んでいけるよう呼び掛けていく。</p> <p>② 「うつのみや元気っ子健康体力チェック」の結果分析を生かし、年間を通した体力向上に取り組む。</p> <p>③ 休み時間の外遊びを全児童が行えるよう、運動委員会のイベントやクラス共遊を行ったり、実態に応じて外遊びを促したりする。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員 88 児童 89.4</p> <p>教職員では 2.0 ポイント、児童では 0.6 ポイントと、対象において、肯定回答は指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>休み時間の外遊びを全児童が行えるよう、運動委員会のイベントを行ったり、各クラスで外に遊びに出るように注意喚起をしたりする。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B6 豊かな人間関係力を育てる場を工夫し、社会性の育成に努めている。</p> <p>【数値指標】児童・教職員アンケート</p> <p>「学級活動や縦割り活動で、友達と協力して進んで活動している。」</p> <p>⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 特別活動の授業を通して係活動など自主的な活動を通して、学級での人間関係力を高める。</p> <p>② 特別活動の研究を生かし、児童会活動や縦割り班活動がより児童の主体的な活動となるよう工夫する。</p> <p>③ 委員会活動やクラブ活動において児童による自治的な活動を実践する。児童のよさを生かして皆に認められ、自己肯定感を感じられる場を意図的に設定する。（縦割り班活動や児童集会の活用）</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員 100 児童 94.1</p> <p>対象において、肯定回答は指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>引き続き、特活での研究を生かし、特色ある学校づくり等を進め、「自分たちの学校を自分たちでつくる」を児童・教職員ともに目標とした自主的な活動を行い、自己肯定感や他との協働する力の育成を図る。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・「児童生徒は、思いやりの心をもっている。(A2)」「児童は、健康や安全に気を付けて生活している(A4)」、「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている(A18)」について、児童・保護者・地域住民ともに好結果であった。
- ・児童では、「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している(A8)」の肯定割合が大幅に向上したが、「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている(A6)」、「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている(A17)」の肯定的回答の低下が見られた。
- ・「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる(A3)」「児童は、宇都宮の良さを知っている(A7)」「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している(A8)」について、児童・教職員は良好な結果であったが、保護者の評価はよいとはいえない。
- ・「児童は、『持続可能な社会』について、関心をもっている(A9)」、「児童生徒は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている(B4)」において、職員の肯定的回答の低下が見られた。

7 学校関係者評価

【全般的事項について】

- ・個性の伸長、やればできる、明るく楽しく、プラス思考でこれまで通りやれば、魅力ある学校になることを確信している。
- ・「自分たちの学校を自分たちでつくる」という意識をもたせた取り組みは、児童に主体性をもたせる活動としてとてもよい。
- ・現在、不登校が増え続けているとよく聞くが、不登校が減っている。先生方が熱心に関わっているからと思う。

【アンケートの結果を受けて】

- ・A6 英語を使ってコミュニケーションをしているとあるが、授業以外でも日常的に英語でコミュニケーションしている場面はあるのか知りたい。
- ・A8 アンケート結果で児童と保護者との肯定的回答の割合に差がある。保護者として、家庭で1人1台端末を使用する子供たちに関わりたいが、自主学習として使っているとき何を学習しているのかが分からず、どのように関わっていけばよいのかも分からない。子供が端末を使用して何の学習をしているかを分かるように、保護者に知らせてほしい。
- ・A19 利用する人の安全に配慮した環境づくりの地域住民の肯定的回答の割合が下がったのは、学校前歩道橋の破損状況が影響しているとも考えられる。
- ・A20 学校では、現代の子供たちの生活に沿った SNS の課題（フェイクニュース等）について授業で取り組んでほしい。
- ・保護者として、子供たちのために学校とのよりよいコミュニケーションを心がけている。HP は毎日のように学校の様子があがっていて、子供たちの様子が伝わっている。保護者の理解を得ている。以前とは違ってきた。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- 今後も、児童一人一人が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という目標をもち、特別活動や学校行事等において、教職員の支援のもと協働して主体的な活動に取り組めるよう、自己肯定感や互いに認め合える人間関係を育む場を意図的に設定する。
- ・保護者や地域住民、地域協議会との連携・協力をさらに深め、情報の積極的な発信やボランティア等の参画を通して、学校の取組への理解を広げるとともに、児童が安心・安全にいきいきと活動できる教育環境づくりを推進する。
- ・教職員が学校の諸課題や児童の実態等について共通理解を図り、チームとして組織的に対応するとともに、校務の焦点化やデジタル技術活用による業務の効率化を進め、「働きがい」のある「働きやすい」職場環境づくりを継続して目指す。

【学習指導】

- 児童が主体的に学ぶ学習環境づくりに努める。また、児童が目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む姿勢を育むとともに、教職員が児童一人一人の特性や実態に柔軟に対応し、意欲的に学べる授業を展開する。
- ・地域住民や企業等と連携・協力しながら、児童の興味・関心を広げる教育活動を充実させる。また、現代の生活に沿った SNS の課題解決も含め、社会の変化に対応できる実践的な学びを深める。
- ・家庭と連携し、デジタル機器の適切な活用を通じた家庭学習の充実を目指すため、1人1台端末を自主学習で活用する際の保護者の関わり方について情報共有を図り、学校での学びが家庭での読書や自主学習に円滑につながるよう、保護者とのコミュニケーションを行い教育活動への理解と協力を得られよう努める。
- ・今後とも、デジタル機器や図書等を活用した「分かる授業」を進めるとともに、教職員自身が児童の主体性を引き出すモデルとなるよう研修を深める。児童が目標に向かって粘り強く取り組み、基礎的な学力の定着が図れるよう、家庭や地域と学ぶ意義を共有する。

【児童生徒指導】

- ・「緑が丘小生活のきまり」を教職員と児童で共通理解し、相手意識を育て、マナーを守ることの大切さ等を育む指導を日常的に継続する。「自分たちの学校を自分たちでつくる」という意識をより醸成し、児童会の運営委員会が中心となって生活目標を設定し、全教職員による重点的な指導を通して、児童がきまりの意義を考え、規範意識を高めて実践できるよう努める。また、時と場に応じたあいさつについては、児童が活躍できる場を設け、その取組の良さを認めて励ますことで、主体性を生かした態度の育成を図る。
- ・いじめや不登校等対策については、今年度の組織的な取り組みを継続し、アンケート結果や教育相談等で得た情報を教職員で共有し、未然防止や早期発見・早期対応に努める。おはなしタイム（教育相談）やQ-U検査の結果を効果的に活

用し、児童を共感的に受け止め、一人一人を大切にす。不登校を生まない学級経営を日頃から意識し、分かる授業の工夫や居心地の良い学級づくりを通して、自己肯定感を高めるための指導を充実させる。

- 学校・家庭・地域や地域学校園が連携を図り、協力して指導する体制づくりを行う。地域・保護者・地域学校園と連携した取り組みになるように工夫していく。また、学校の取組をホームページ等で積極的に発信し、保護者や地域との情報共有を行うことで、学校全体で児童の成長を見守りながら、支援する体制を構築する。

【健康(保健・食育)体力】

- ・ 児童の実態や課題を教職員で共通理解をするとともに、食育指導や児童会健康委員会の取組等の様々な健康指導や安全指導を通し、日頃から児童自身が自らの健康や安全を意識して生活できるよう指導に努める。
- ・ 日常の安全指導や訓練などにより、感染症や熱中症の予防、怪我や事故の未然防止について児童の危機意識を高め、自ら判断して自己の命を守る行動力の育成を図る。
- ・ 児童が、安心・安全な学校生活を送るために、清掃活動等により日常的に学校環境を整えたり、地域の方と連携して登下校時の見守りのボランティアの充実を図ったりと、安心・安全な環境づくりを行う。
- ・ 養護教諭や学校栄養職員、地域と連携し、健康安全教育を徹底する。また、運動委員会のイベントや各クラスでの働きかけを通し、児童が目標に向かって進んで外遊びや体力向上に励めるようし、児童に主体的な生活習慣の定着を図る。